研 修

教職課程・免許・大学院課程に関する検討資料 (教員免許状、大学による教員の養成について)

「令和の日本型学校教育」を担う教師の学び

- ✓ 教員育成指標の策定と教員育成協議会を組織
- ✓ 研修履歴の作成・記録と指導助言等
- ✓ 法定研修(初任者研修、中堅教諭等資質向上研修) 等

採 用

大 学 1= ょ 教 員 養 成

員

免

許

状

任命権者等による教員採用

検討

反映

教員養成における質保証

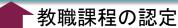
- ✓ 教職課程を管理する組織の運営
- ✓ 科目担当教員の適正性と教職課程への意識醸成
- ✓ 学位課程と連携した教員養成カリキュラムの設計
- ✓ 単位の実質化

教員養成を主たる目的と する学部学科等

- ✓ 一般の学部学科等に加えて幼稚園 と小学校の教員養成が可能
- ✓ 免許科目を含めた教員養成に関す る科目を修得し卒業要件を満たす
- ✓ 教員養成の科目全てが学位と連動
- ✓ 教師や教育関係職が主な出口

一般の学部学科等 (開放制)

- ✓ 中学校、高等学校、特別支援学校、養 護教諭、栄養教諭の養成が可能
- ✓ 教育実習や教職論等の教職関係科目 は卒業要件に含まれない場合が多い
- ✓ 免許教科の専門性と学位が連動
- ✓ 教職に就かず免許のみを取得する割 合が多い



専修免許状(修士、専門修士) 一種免に加えて大学院で24単位修得

- 一種免許状(学士) 51~59単位+8単位(教養科目) 二種免との違いは必要単位数と学位
- 二種免許状(短期大学士) 31~37単位+8単位(教養科目) 一種免への上進努力義務

教職課程コアカリキュラムの内容を含めることが必要

小学校、中学校は介護等体験が必要

高校の二種免はない

(二種~専修で効力は同じ)

教員採用選考に係る第一次選考 の共同実施

学校教育における今日的課題

- ✓ 教師不足、教員採用倍率の低下
- ✓ 不登校、日本語指導、特別支援教育 等

次期学習指導要領の基盤となる考え方

- ✓ 深い学びの実装、多様性の包摂、実現可能性の確保
- ✓ 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白
- ✓ 学びをデザインする高度専門職としての教師
- ✓ 総合的な勤務環境整備
- ✓ デジタル学修基盤をはじめとする基盤整備

高等教育における今日的課題

- ✓ 2040年には大学進学者数が約27%減
- 学修者本位の教育の更なる推進
- ✓ 高等教育機関の機能強化と規模の適正化
- ✓ 地理的観点からのアクセス確保 等

(教育職員政策課作成)

普通免許状の取得に当たって修得を要する単位(幼稚園・小学校教諭) 資料4

■ 幼稚園教諭				(単位)	■ 小学校教諭	(単位)			
領域部分	各科目に含めることが必要な事項	専 修	— 種	二 種	教科部分	各科目に含めることが必要な事項	専修	種	重種
領域及び保育 内容の指導法 に関する科目	 領域に関する専門的事項※1 保育内容の指導法(情報機器及び教材の 活用を含む。) 	16	16	12	教科及び教科 の指導法に関す る科目	 教科に関する専門的事項*1 各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) *2 	30	30	16
教職部分教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解*2 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	6	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解※3 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	6
道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び 生徒指導、教育 相談等に関する 科目	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	4	4	4	道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び 生徒指導、教育 相談等に関する 科目	 ・道徳の理論及び指導法※4 ・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法※5 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 ・進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法 	10	10	6
教育実践に関す	• 教育実習	5	5	5	教育実践に関す	• 教育実習	5	5	5
る科目	• 教職実践演習	2	2	2	る科目	• 教職実践演習	2	2	2
大学が独自に 設定する科目		38	14	2	大学が独自に 設定する科目		26	2	2
上記に加えて		75	51	31	※1 国語、社会、算数、	・ 理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語 めま原本会社科学のまたもり、トゥ科学を修復	83	59	37

「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、

「数理、データ活用及び人工知能に関する科目」又は「情報機器の操作」(各2単位、計8単位)※他学校種も同様

^{※1} 健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得

^{※2 1}単位以上を修得

の教科に関する専門的事項を含む科目のうち1以上の科目を修得 ※2 専修免許状又は一種免許状の場合は、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ1単位以上、

二種免許状の場合には6以上教科の指導法に関する科目について、それぞれ1単位以上を修得

^{※3 1}単位以上を修得

^{※4} 専修免許状又は一種免許状の場合は2単位以上、二種免許状の場合には1単位以上を修得

^{※5 1}単位以上を修得

普通免許状の取得に当たって修得を要する単位(中学校・高等学校教諭)

■ 中子仪教酬			■ 尚守子仪叙谢	X iii				
教科部分	各科目に含めることが必要な事項	専 修	— 種	重種		各科目に含めることが必要な事項	専 修	_ 種
教科及び教科	• 教科に関する専門的事項※1				教科及び教科	教科に関する専門的事項※1		
の指導法に関す る科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を 含む。)※2	28	28	12	の指導法に関す る科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を 含む。)	24	24
教職部分 教育の基礎的 理解に関する科 目	 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解※3 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) 	10	10	6	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解※2 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10
道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び 生徒指導、教育 相談等に関する 科目	 道徳の理論及び指導法*4 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法*5 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 	10	10	6	道徳、総合的な 学習の時間等 の指導法及び 生徒指導、教育 相談等に関する 科目	 総合的な探究の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法*3 生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 	8	8
教育実践に関す る科目	• 教育実習	5	5	5	教育実践に関する科目	• 教育実習	3	3
	• 教職実践演習	2	2	2		• 教職実践演習	2	2
大学が独自に 設定する科目		28	4	4	大学が独自に 設定する科目		36	12
		83	59	35			83	59

^{※1} 例えば、数学の場合、代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータについて、それぞれ1以上の科目を修得

^{※2} 専修免許状又は一種免許状の場合は8単位以上、二種免許状の場合には2単位以上を修得

^{※3 1}単位以上を修得

^{※4} 専修免許状又は一種免許状の場合は2単位以上、二種免許状の場合には1単位以上を修得

^{※5 1}単位以上を修得

^{※1} 例えば、数学の場合、代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータについて、それぞれ1以上の科目を修得

^{※2 1}単位以上を修得

^{※3 1}単位以上を修得